

35 「攻めの農林水産業」の展開に資する研究開発 【2, 517 (4, 001) 百万円】

対策のポイント

国内外の市場の開拓、効率的で力強い生産現場の構築等のための研究開発を推進します。

<背景／課題>

- ・農林水産業の成長産業化のためには、輸出の拡大、輸入品に対抗できる高い品質を有する農林水産物の安定生産、生産コスト低減等による生産性の大幅な向上が必要です。
- ・こうした課題に取り組む生産者や産地は、現在の技術体系では解決できない問題に直面しており、新たな品種や技術体系を確立するための研究開発の推進が求められています。

政策目標

- 輸入濃厚飼料と同等の価格の国産濃厚飼料の生産・利用技術を開発(平成32年度)
- 大豆について、低収地域における単収を250kg/10aまで向上させるための圃場診断技術及び対策技術を開発(平成32年度)

<主な内容>

1. 市場開拓に向けた取組を支える研究開発(委託プロジェクト研究)

360(220)百万円

国内外の市場開拓や国内シェア奪還に向け、地域の農林水産物・食品の機能性の発掘、薬用作物の国内生産の拡大等のための研究開発を推進します。

2. 生産現場強化のための研究開発(委託プロジェクト研究)

1,284(1,866)百万円

効率的で力強い生産現場の構築のため、輸入濃厚飼料と同等の価格の自給濃厚飼料の生産・利用技術、水田作における大豆等の収量の高位安定化技術等の研究開発を推進します。

3. 技術でつなぐバリューチェーン構築のための研究開発(委託プロジェクト研究)

874(1,915)百万円

「強み」のある新品種を創出するため、実需者等のニーズに応じた業務・加工用作物品種の開発や、これを支えるゲノム育種と海外植物遺伝資源の収集・提供を推進します。また、施設園芸の収益力向上のため、地域資源を活用した効率的かつ低コストなエネルギー利活用技術の開発を推進します。

〔委託費〕
〔委託先：民間団体等〕

<各省との連携>

- 内閣府 ・イノベーションが主導する農林水産業の成長産業化を目指し、「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」の下で、農業のスマート化に向けた技術やシステムの開発、新たな育種技術の開発等を推進

お問い合わせ先：技術会議事務局

1及び2の事業 研究統括官(生産技術)

(03-3502-2549)

3の事業 研究開発官(基礎・基盤、環境)

(03-3502-0536)

「攻めの農林水産業」の展開に資する研究開発（委託プロジェクト研究）

農林水産業の成長産業化に向け、国内外の市場開拓、効率的で力強い生産現場の構築、「強み」のある新品種の開発等のための研究開発を推進。

市場開拓に向けた取組を支える研究開発

○国内外の市場開拓に向け、品目に応じた戦略的な研究開発を推進

＜具体的な研究例＞

国内新市場の開拓（機能性食品の例）



地域の農林水産物・食品について、機能性表示を可能とする科学的エビデンスを取得するとともに、成果を活用したビジネスモデルを作成

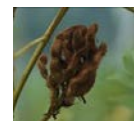
外国産物の国産化（薬用作物の例）

薬用作物と野菜を組み合わせると導入すれば収益が上がる

水稻、大豆

薬用作物
野菜

薬用作物を含む高収益な複合経営モデルを策定



牧草の採種技術を用い、薬用作物の高品質種子の低コスト生産技術を開発



土壌pH・水分等の調整による薬用作物の有効成分の含有率向上技術を開発

カンゾウ、トウキ等需要の多い薬用作物の低コスト・品質安定化技術を効率的に開発

国産農林水産物の
生産・消費拡大

生産現場強化のための研究開発

○担い手の収益力向上、経営の安定化に繋がる研究開発を推進

＜具体的な研究例＞

種類	収穫部位	TDN 含量	家畜
イアコーン	雌穂（芯、穂皮、子実）、茎葉の一部	約80	牛
コーンコブミックス（CCM）*	子実、芯の一部	約90	牛、豚

* トウモロコシの芯と子実を利用する飼料

栄養価が高く、輸入飼料と同等の価格の自給濃厚飼料による新たな生産システムの開発



簡単な指標によってほ場の状態を総合的に評価



マニュアルを使って多収阻害要因を特定し、対策技術を決定



有効な対策を講じることで単収が向上

大豆等の多収阻害要因について、農業者自らが原因を特定できる指標を開発するとともに、簡易な対策技術の体系を構築

効率的で力強い
生産現場の構築

技術でつなぐバリューチェーン構築のための研究開発

○マーケット・インの発想により強みのある新品種の開発を推進

＜具体的な研究例＞



グルテンを含まない100%米粉パン



赤果肉リンゴを用いたセミドライフルーツ



加工歩留まりの高い長球形のタマネギ

実需者と連携した業務加工用品種の開発

海外からの有用遺伝資源の導入や育種期間を大幅に短縮するDNAマーカーの開発等により、品種開発を下支え

「強み」のある農産物の創出

イノベーションが主導する農林水産業の成長産業化